

遊びの内容がマンネリ化し、創造的な活動になるよう助言することの重要性を感じた。また、色別活動を行うことでどんな力をつけたいのか、各学年の発達段階に応じた明確なめあてを設定することも重要であると考えた。

(3) 委員会

5、6年生児童からなる9つの委員会では、各委員会の話し合いによって自分たちの学校を自分たちの力でよりよくしていこうという活動がなされている。

また、定期的に行われている代表委員会では、各委員会の委員長と3年生以上（後期からは2年生も参加）の代表委員が昼休みに集まり、学校全体で取り組む生活目標について話し合っている。1学期は、生活目標を「友だちを大切にする」とし、具体的な学級目標を立てた。2学期は、「おまかせいしべっこ」の「お」の「大きな声であいさつをしよう」を学校の生活目標として取り組み、3学期は「おまかせいしべっこ」の「し」の「しずかにろうかは右側を」を学校の生活目標にし、学級の具体的な目標を決めて取り組んできた。



代表委員会では児童一人ひとりの意見が学校生活に反映され、児童が主体的によりよい学校作りを目指す場となっている。しかしながら、話し合う時間が昼休みということもあって、来るのを忘れてしまう児童がいることや、低学年児童に自治的な活動をどのように伝えていけばよいかという課題もある。

(4) クラブ

本校のクラブ活動は、児童による自治的な活動、主体的な活動をねらいとして、6年生の児童に自らクラブを考えさせ、一から立ち上げさせている。

まず、6年生の児童に、どんなクラブを創りたいかを考えさせた。どのような活動をするクラブなのか、年間を通した活動計画はどのようなものか、本当にうまく異学年交流ができる内容であるのか等を思考の軸として考えさせた。そして、学年で集まり、おのおのが考えてきたクラブを出し合った。話し合いの中で、活動場所等をすり合わせながら活動の精選、類似活動の統合をし、今年度は9つのクラブが誕生した。その後、6年生は自分の希望するクラブに入り、そのメンバーで原案を元に活動内容を練り上げた。自らが考えたアイデアや工夫がクラブ活動に取り入れられていくことで、児童は大きな達成感と責任感を持ちながら活動計画の作成に取り組んでいた。その後、児童集会でクラブをPRし、

4・5年生に入部希望を聞き、クラブが構成されていった。

第一回のクラブ活動では、6年生が考えた活動計画について、4・5・6年生で話し合った。6年生から下学年へのトップダウンにならないよう、下学年の意見にも耳を傾けながら再考し、計画を練った。その後十数回の活動で、6年生は、「自分たちが創ったクラブだから」と責任を持って活動したり下学年をまとめようと能動的に動いたりする姿が見られた。4・5年生では、自分たちで考えた活動計画であるということが自主的な行動の一助となり、自分の役割を果たそうと進んで活動に参加する姿も見られた。

一方、計画を立てるため、時間の確保が必要になることが課題である。学年初めということもあり、6年生への負担が大きいことも気にしなければならない。

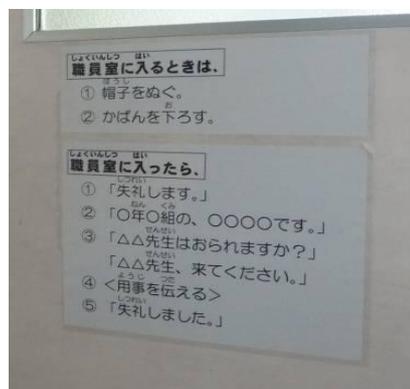
2、規範意識を高める取り組み

(1) 丁寧語の使用

・ 職員室や保健室への出入り

今年度の新たな取り組みとして、丁寧語の指導が挙げられる。児童の規範意識を高めるために、日頃から丁寧語で話すように、職員で共通理解を図り、全校で指導に臨んだ。その第一歩として、職員室と保健室に入る際に、「〇〇です。」「△△します。」という言い方で、自分の学級、名前、用件をはっきりと言えるように取り組んだ。

低学年の児童や、上手に用件が伝えられない児童のために、職員室、保健室の各ドアにマニュアルを貼り、しっかりと丁寧語を使用できない場合は、その場で言いなおしをさせて、正しい言葉遣いを児童が身につけられるように繰り返し指導してきた。1年を通して指導を続けることで、職員室や保健室ではしっかりと丁寧語で用件を伝えようとする姿勢が目に見えて感じられるようになった。また、各教室においても授業中に丁寧語を違和感なく遣える児童が以前に比べて増えてきた。



・ 健康観察

自分の状況をしっかりと把握し伝えることは、生きていくことでとても大切なことである。朝の健康観察において、自分の名前を言われたらしっかりと返事をして、その日の健康状態をはっきりとした声で伝える。この取り組みは、児童が学習規律を身につける上で重要なものである。その日のスタートをしっかりとすることで学習も主体的に取り組むこ